

令和5年度第1回鹿角市行政評価市民会議

日 時：令和5年7月27日（木）18時30分～20時00分

場 所：鹿角市役所 第1・2会議室

出席委員：8名中6名

出席職員：事務局（以下のとおり）

副市長

事務局：〔政策企画課〕課長、副主幹兼室長、主査、
主査、主任、主事

1 開会（進行：政策企画課）

ただいまから、令和5年度第1回鹿角市行政評価市民会議を開会いたします。

2 委嘱状交付

副市長より、委員8名（うち、欠席2名を除く）へ委嘱状を交付。

3 出席者紹介

委員6名及び出席職員自己紹介。

4 挨拶（副市長）

本日は大変お忙しいところ、鹿角市行政評価市民会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。また皆様には、向こう2年間、委員を御快諾いただきまして心より厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、第7次鹿角市総合計画のもと、地域の稼ぐ力を高める産業の振興、人口構造の若返りに向けた取組み、2030年カーボンニュートラルの実現、デジタル化の推進など、将来都市像に掲げた「ふるさとを誇り 未来を拓くまち 鹿角」の実現を目指し、様々な取組みを進めているところです。

計画の推進にあたって、市は、市民の視点に立った成果重視の効率的で質の高い行政活動の実施と、透明性の高い開かれた市政の推進を図るために、行政評価制度を実施しているところであります。

この行政評価は、総合計画の推進状況を確認し、実効性を確保していくことを目的として、市職員が自ら行う内部評価と、市民の皆さんによる外部評価によって構成されており、皆様は第11期の行政評価市民会議委員となります。

委員の皆様には、内部評価の結果や今後の取組みについて、市民の目線からチェックしていただきたいと考えており、評価により課題があれば、事業の進め方の変更や、新たな事業を追加するなど、スクラップ・アンド・ビルドを進め、限られた行政資源を効率的・効果的に活用してまいります。

結びになりますが、委員の皆様より忌憚のないご意見を頂戴し、より良い評価制度を行って参りたいと考えておりますので、何卒お力添えを賜りますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

5 会長選任

規則では、委員の互選。立候補者 → なし

事務局案 → 承認

職務代理者について（会長の指名）

6 案件

（1）行政評価制度の概要について（資料1、2、3、4）

政策企画課説明

説明の概略

① 行政評価制度について（資料1）

- ・ なぜ行政評価をするのか
 - ・ 行政運営に関する情報を提供し、共有することによって、施策等の決定や実施の過程について市民が確認することができる透明性や説明責任の確保
 - ・ 市民参加の機会を拡大し、市民ニーズの把握と施策等の重点化による戦略性の確保
 - ・ 事務事業の必要性等を検討するなど、無理・無駄のない効率性の確保
- ・ 行政評価における市民会議の役割について
 - ・ 行政評価市民会議は、外部評価の一環として設置しており、市の仕事の成果を確認し、課題点があれば改善に結び付けていくものとして、外部の目で点検していただく。
 - ・ 点検のポイントは次の2点。

市の説明は分かりやすく納得できるものか

市が行った内部評価の考え方や方法が適切であり、市民の考え方とかけ離れていないか

② 令和5年度行政評価スケジュールについて（資料2）

（省略）

③ 第10期行政評価市民会議意見集について（資料3）

（省略）

④ 第7次鹿角市総合計画前期基本計画 実施計画（令和4年度）について（資料4）

- ・ 総合計画の全体像について（P5）
 - ・ 総合計画は、市政運営を総合的、計画的に進めるための指針として、将来どのようなまちにしていくなか、また、そのためにはどのように取り組んでいくかを体系的にとりまとめたものであり、10年間の長期的な展望に立ちながら定めている。
 - ・ 市の計画には、農業、観光、福祉、教育など、分野ごとに個別計画があるが、総合計画は、それらの最も上位に位置付けられるものであり、現在、令和3度から令和12年度までを計画期間とした第7次の計画である。
 - ・ 総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画の3つの階層で構成されており、「基本構想」は将来都市像やその将来都市像を実現するための目標や方針を定めている。
 - ・ 「基本計画」は、将来都市像の実現と政策目的達成のために必要な施策を5年計画で示している。
 - ・ 「実施計画」は、基本計画で示した施策を実行するための具体的な事業を3年間の期間で定め、毎年度、事業の進捗を評価いただきながら一年ごとに見直しをして策定している。

会議概要

- ・ 総合計画の体系について（参考資料『第7次鹿角市総合計画 前期基本計画（ダイジェスト版）』P 6、7）
 - ・ 基本構想では、将来都市像「ふるさとを誇り未来を拓くまち 鹿角」の実現に向け、長期的な展望に立ち、「暮らしを守る5つの基本戦略」と「都市経営の視点で攻める3つの経営戦略」を定め、各戦略目標を設定。
 - ・ 各戦略の下には、政策目的を達成するための手段として、令和3年度～7年度までの前期5か年で取り組むべきことを32の取組方針として定め、市民の確かな暮らしの実現と、将来にわたり安定的な市民サービスの提供を目指している。また、地方創生の取組みとして、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しており、総合戦略に掲げる基本目標・重要業績指標（KPI）及び具体的な取組みは、総合計画に包含されるものとして、総合計画と整合性を保ちながら、一体的なまちづくりを推進することとしている。
- ・ 成果指標について（資料4 P 6、98）
 - ・ 32の取組方針それぞれに沿った事業展開の方向性ごとに複数の事務事業をグループ化した事業群が83群あり、事業群ごとに成果指標を設定しており、3か年における実績値の推移や具体的な事務事業の内容、実施時期を明示している。これらの指標の伸びや減少、さらには、指標には表れない事業の効果をどのように捉えているかを分析したもの、いわゆる自己評価結果について、第2回市民会議において委員に示し、それについてご意見を伺いながら評価結果をまとめ、次の実施計画の策定方針を検討していく。

質 疑

（委員）最近だと Zoom での会議が多かったので、今回の会議は紙資料の行き来が多く非常に分かりづらいと思いました。また、カーボンニュートラルを掲げているのであれば、大量の資料印刷はどうなのかと個人的に思いました。この会議がパソコン等で行う方法に今後変わっていくのでしょうか。

（事務局）この会議もデジタル化を進めていきたいと考えています。資料3に前回の行政評価市民会議の意見集がありますが、取組方針30「未来技術の導入を進めます」がデジタル化推進の部分になるので、今回いただいた意見はそこに記載されるような形で、今後検討していきたいと思っております。

（委員）私は第5次総合計画の際も参加させてもらっていて、当時より事業が多い印象です。今は概要が分かるものがあるので、目で追って耳で追うことができました。簡単で分かりやすくまとめるのは骨の折れる作業かと思いますが、よろしくお願いします。

（2）令和5年度市民アンケート実施結果（速報集計）について（資料5）

政策企画課説明

説明の概略

・ 市民アンケートの調査項目は、第7次総合計画前期基本計画に掲げた32の取組方針ごとの市の取組みに対する満足度や重要度などについて測るものとしており、設問数は11問である。

- ・対象者は、本市の総人口における男女割合、年齢別割合、地区別割合を考慮して抽出している。
- ・アンケート結果の最終版は、実施結果報告書という冊子版で委員に後日配付する。また、市ホームページ及び広報かづの9月号にて結果を公表する予定。

質 疑

(委員) 設問 10④安全で安心して暮らせるまちだと市民が思っていることは素晴らしい。しかし、設問 10①産業が元気で活力があると思っている人が少ないです。日本全体の問題ですが、高齢社会になりお年寄りが増えています。お年寄りを施設で看ることになりますが、その施設のマンパワーが足りない、賃金が低いので働き手がいらない、という問題があります。そのフォローも産業の一つになりますし、産業のみならず福祉の問題でもあると言えます。

(委員) 市民アンケートを行い、結果が出て、広報に載せるとのことですが、数字をよくするために今後何をしなければいけないかということに対し、市民への提示や話し合いの場はあるのでしょうか。結果だけの提示でなく、この結果を踏まえて何をしていくかを市民は求めていると思います。

(事務局) 毎年アンケート結果について市民の皆様にお示ししておりますが、同時進行で市役所内部では、この状況を政策企画課と事業担当課でヒアリングという形で状況分析をしており、結果が出ていない、解決できていない課題について把握しております。来年度の予算編成が秋から始まりますが、それに向けて改善案を示しながら具体的にどう取り組み、解決していくか、また、国や県の制度も有効活用しながら市民の満足度を高められるような制度設計を協議していきます。次回の市民会議では、令和4年度の評価結果と改善案を皆様にお示しし、意見をいただきながら、ブラッシュアップしていくような形で進めていきたいと思っています。

(委員) アンケートの回答者数について、30代未満～40代の子育て世代の回答者数・割合が少ないと感じます。市民が出産・子育てしやすい環境づくりが大切だと思いますが、50～70代ではなく子育て世代にピンポイントでアンケートをとることは考えていないのかお聞かせください。

(事務局) 若い方々の意見をとるというのは大変重要であり、「若者に選ばれるまち」という政策研究を進めていく過程で、若い人の声を拾えるようなアンケートを計画しておりますので、そちらで対応したいと考えています。今回の市民アンケートについては、鹿角市の人口分布に合わせ、年代の割合がぶれないよう調整している部分がありますので、市全体の声を聞くための市民アンケートだと理解していただきたいと思います。

(委員) 部活動が始まった小学校高学年、中学校、そのあたりの子を持つ親は悲鳴をあげています。週末の度に大会があり、お金の面とその忙しきで子ども一人でも大変だという声が出ています。先生の負担を減らすことは大事ですが、そうだからといって親に負担が来ると第2子、3子を諦めることも十分にあると思います。どこか支援できる場所があれば、親の気持ちに余裕ができるのではないかと思います。

(事務局) おっしゃるとおり教師の多忙化防止対策が昨今続いていて、スポーツ少年団・スポーツクラブへの移行が中学校にも進んでいくことになり、ご父兄の方々の負担が大変増しているということは重々承知しております。市として何ができるかについては、担当課へこのようなご意見が出たことをお伝えしたいと思います。

(事務局) 子育て世代の方はお忙しいので、アンケートを答える時間がなかなか取れないこともあると思います。ただ、鹿角市としては人口構造の若返りが一番の課題ですので、アンケート以外でもできるだけ子育て世代や若者の意見を集めるため、方法について工夫したいと思います。

(委員) 「鹿角市は子育てが充実している」という程度ではなく、「鹿角市しかそれが無い」というくらいの魅力がないと鹿角市に移ってこないと思います。鹿角市にしかない子育て支援策があったら面白いと思っています。八郎太郎関連事業が実施されているようですが、予算の使いどころが違うのではないかと市民は思っていると思います。

(事務局) ぜひこの行政評価制度を使ってメリハリをつけた予算編成にしていきたいと思いますので、ご意見はいろいろ頂戴したいと思います。

(委員) ごみの適正処理と資源リサイクルの推進の満足度1位について、他県では分別が厳しいところがありますが、鹿角市は厳しくないと思っています。本当に細かく分別するのであれば私はやりたいと思いますが、もう少し細かく分別をしてもいいのかなと思いました。

(事務局) おっしゃるとおり、鹿角市の特徴としては、他市町村よりも分別が少なく市民が楽にゴミを捨てられるようなところがありますが、それでもリサイクル率は十分に高まっています。市では、市民負担を減らしながら、リサイクル率を高めていく施策に取り組んでいます。

(委員) ごみ処理場の見学に何度か行ったことがありますが、処理場の方たちが大変そうに分別をしています。ごみの適正処理について満足度が高いというアンケート結果が出ていますが、鹿角市は分別が緩く、現場の方たちが集まったごみをさらに分別している状況ですので、このアンケート結果に納得がいきません。小学生が学校でリサイクルの勉強をしていますが、それが家庭でも簡単に分かるように広めてもいいのではないかと思います。

(事務局) 昨年破碎処理場が新しく稼働しましたが、ある程度金属が含まれていても破碎処理場で捨てられるようになったことで、現場で分別に苦勞されているのかと思います。一方で、これまで尾去沢の不燃物投棄場に捨てられたごみが75%減少しており、尾去沢で埋め立てていたものが、破碎処理場で処理されておりますので、こういった新しい施設を使いながらリサイクルを進めていきたいと思っています。

(委員) ほかの設問では年代別の回答率がありますが、最も興味のある「9 まちの満足度」だけ年代別が記載されていません。鹿角市の産業は元気で活力があると思うかという設問に、13.3%しか活力があると回答

していませんが、それが 20 代の回答なのか、60 代の回答なのか見えないので、年代別の回答率があればいいと思いました。

(事務局) 今回は速報値ですが、最終版の実施結果報告書では年代別の回答率を示します。

(委員) 先程のリサイクルの話で、製造業や建設業では混廃といい全部混ぜて捨てることができます。そしてそれを分ける業者があり、その業者はそれが仕事なので、分別が全てなくなるとそういう仕事の人が働く機会を失ってしまう部分もあります。また、最近ではペットボトルが油の代わりになるとのことで、燃焼温度を上げるためにある程度可燃物に混ぜたいという話もあります。破碎処理場については、尾去沢での埋め立てがなくなったという方が大きいと思います。まずは環境を守っていくこと、人の手で何とかできることはいいですが、人の手ではどうにもなくなる方が怖いと思うので、放っておくと危険だという部分から対応している結果だと思います。

(委員) アンケートの回答率 49.1%が低いと見受けました。また、この会議の進め方ですが、市役所側から資料をいただいてその説明を受けて意見を求めるのか、ざくばらんに参加している皆さんの市に対する思いを伝えるのでしょうか。

(事務局) 基本的には資料に対してご意見をいただきたいのですが、資料 1 の 3 ページにありますとおり、日常生活で思うことや感じることを政策に反映するという意識しておりますので、資料に沿った話以外でも考えや意見をお話しいただければと思います。また、市民アンケートの回答率について、統計学的には回答数が 400 票を超えれば誤差が 5%以内となり信頼度があるとされているため、回答率から逆算して 900 人の方にアンケートをとり 400 人以上の回答を得ることを目安としています。

(委員) 湯沢市で女性による模擬議会を行い実際に議員になった方がいます。子育て世代の女性議員がいて、また目線が違うと思います。女性による模擬議会というのをぜひやった方がいいと思います。

(事務局) 女性の視点をまちづくりに反映することは非常に重要なことだと考えています。今回、この市民会議委員の皆様は女性比率が高くなっておりますので、ぜひ多くのご意見を頂戴したいと思います。

7 その他

(事務局) 次回の会議ですが、9 月の開催を予定しております。日程を調整し、ご都合を確認させていただきますのでよろしくお願いします。

(事務局) 次回は、市が掲げた施策の進捗状況についてお示しし、我々が評価したものに対してご意見をいただきますのでよろしくお願いします。

8 閉会 (20:00 終了)